

平成15年度オープン
(仮称)

新潟市郷土歴史博物館

～新潟の歴史を象徴する地に、信濃川と調和した情緒豊かな
「みなとまち」を表現した、歴史・文化ゾーンが誕生する～

信濃川・阿賀野川の河口に位置する新潟は、海と川の水によって形づくられた。平安時代、信濃川河口の港「蒲原津」には、日本海を行き交う船が寄港し、川舟が集まったといわれる。江戸時代、新潟湊は、年貢米の積み出しや全国各地から集まる回船（商船）でにぎわいを見せる。安政5年（1858）には、通商条約で全国五港の一つに指定され、明治元年に開港し、世界に開かれた港になった。水運で各地と結ばれた新潟は、交通の要所として発展していく。また、人々は、河川のはんらんや低湿地であるための苦しみを、排水路の整備などにより乗り越え、美田をつくりあげてきた。「水の都」の名のとおり、水とともに発展してきた新潟。その歴史と文化が、ここに結集する。



郷土歴史博物館周辺の完成予想図

- 1階**
 - 企画展示室
自主企画や巡回展を開催。
 - レファレンスルーム
図書や資料の閲覧などができる。
 - 体験の広場
子どもたちが体験を通して新潟の歴史や文化にふれ、楽しく学ぶことができる。
- 2階**
 - 常設展示室
「郷土の水と人々の歩み」をテーマに、資料や模型、映像などを用いて新潟の歴史について分かりやすく紹介。
 - 大型映像室
大画面で新潟の歴史や伝説などをテーマにした映像が楽しめる。
 - セミナー室
各種講座や研修会が開催される。
- 3階**
 - 収蔵庫
博物館の所蔵品や寄託品を、最適な環境で保管する。

石積みを復元



「新潟税関之図」(部分)(新潟県立図書館所蔵)

運上所の前には信濃川に面して輸入品を荷揚げする石積みが築かれた。石積みから荷揚げされる品々や外国人に接することで、新潟の人々は、新しい世界に目を向け始めた。

旧新潟税関庁舎

(現在は郷土資料館)

開港場新潟を象徴する建物である旧新潟税関庁舎は、明治2年10月、新潟運上揚げ場などを備えて開所した。日本建築に洋風のデザインを取り入れた外観は、当時、人々の目を引いた。現在は、全国唯一の開港当時の税関庁舎として、建物は国の重要文化財に、敷地は史跡に指定されている。

常設展示室イメージ



明治41年の大火で焼失した初代市役所に代わって、2代目市庁舎は明治44年に建設された。木造モルタル2階建の洋風建築で、同じく洋風の警察署と並んで、西堀通に建っていた。昭和8年に焼失。

郷土歴史博物館の外観は、2代目市庁舎をイメージ



2代目市庁舎の正面(大正後期)



早川堀

新潟税関横から内多門川へ抜ける早川堀は、町を出入りする多くの舟が行き交った。しかし、交通手段は水路から道路に変わり、堀の水は汚れ、不衛生になった。昭和37年、すべての堀の埋め立てが決まり、早川堀は姿を消した。昭和61年に、みどり公園の中に、早川堀が再現された。このたび一部を改修する。

西堀をイメージした堀と柳を再現

西堀とその両側の柳は、新潟の町を代表する景観だった。江戸時代に、町中にくらべられた堀を、舟が往來し、店先に荷揚げしたり品物を運び出した。堀は物流の動脈として大切な役割を持っていた。

第四銀行住吉町支店を移築復原、レストランとして活用

大正時代末から、公共施設や銀行などに、鉄筋コンクリート造りが採用された。昭和2年に商業と金融の中心地に建てられた第四銀行住吉町支店も、鉄筋コンクリート造り。正面の、古典様式を基調とした列柱は、銀行にふさわしい荘厳さを象徴している。

水の都 みなとにいがたの歴史

二〇〇〇	二〇	二二	柳都大橋着工(平成14年完成予定) 新潟みなとトンネル貫通(平成14年完成予定)
一九九八	一〇	二〇	柳都大橋着工(平成14年完成予定)
一九八九	平成一	四七	市制施行100周年 市の木に「柳」を制定
一九七二	四七	〃	関屋分水完成
一九八九	〃	〃	新潟東港開港
一九六七	〃	四二	新潟港が特定重要港湾に指定される
一九六四	〃	三九	新潟地震
一九六三	〃	三八	西堀の埋め立てが始まる
一九五六	〃	三三	東堀の埋め立てが始まる
一九五五	〃	三〇	新潟大火
一九五一	〃	二六	新潟港が重要港湾に指定される
一九五〇	〃	二五	各所の堀の埋め立てが始まり、堀は道路になる
一九二二	〃	一五	大河津分水が通水する
一九一七	〃	一六	大正
一九〇八	〃	四一	新潟大火
一八九六	〃	二九	横田切れ(大洪水)が起きる
一八八九	〃	二二	新潟市制施行
一八八六	〃	一九	初代万代橋完成
一八八〇	〃	一三	新潟大火
一八七八	〃	一	英国の旅行家イザベラ・バードが「新潟町は清潔で、堀が良く整備されている」と評する
一八七二	〃	五	西などに改められる
一八六九	〃	二	町や通り・堀の名が、番号や東西などに改められる
一八六八	〃	一	新潟が五港の一つとして開港
一八六一	〃	〃	新潟運上所(のちの税関・現郷土資料館)が開所する
一七一一	〃	〃	このころ新潟町の堀の岸に柳が植えられたという
一六九七	〃	〃	3500隻を記録する
一六七二	〃	〃	元禄一〇
一六五五	〃	〃	明暦一
一五五一	〃	〃	天文二〇
九七	〃	〃	延長五
六四七	〃	〃	大化三